



ことのは  
Grief care network  
GUNMA

## 2021年度 報告書

グリーフケア・ネットワークぐんま「ことのは」事業

特定非営利活動法人キッズバレイ  
令和4年3月31日


# 2021年度 報告書 (2021年4月～2022年3月)

特定非営利法人キッズバレイ  
グリーンケア・ネットワークぐんま『ことのは』

以下の通り、グリーンケア・ネットワークぐんま「ことのは」の桐生・みどり地域を拠点とした活動を報告いたします。

## 【広める】

アウトカム（当初設定）身近な人や協力団体から、グリーフの状況にある人に対して、グリーンケア及びグリーンケア・ネットワークぐんま『ことのは』を紹介できる環境になる。

<p>【当初設定】 講演会の開催 1 回 (11 月) ■アウトプット：参加者 100 名</p>	<p>【実績】 11 月 28 日 (日) 講演会実施 (ハイブリッド配信による) ■アウトプット：参加者 約 150 名</p>
 	<p>会場＋オンラインでのハイブリッド配信講演会を実施。 グリーンケア特別講演会『夜回り先生と考える 命』</p> <p>○本講演では、グリーンケアと「命」の観点から、夜回りを通じて、命に寄り添ってきた「夜回り先生」こと、花園大学客員教授・水谷青少年問題研究所所長 水谷修氏をお招きして講演会を開催。「生きること」「命とは」「グリーフとは」と、考えるきっかけとなればと思い企画した。</p> <p>参加者は定員を超える 150 名。 対面では 50 名／オンライン (YouTube 限定配信) では 100 名。群馬県内だけでなく、北海道から沖縄まで、様々な地域からの参加があった。 講演会の冒頭の挨拶にて、『ことのは』の団体説明とともに「グリーフとは」「グリーンケアとは」の説明をすることにより、グリーンケアを知らない方へも周知できた。</p> <p>○講演後は、座談会・サポーター連携への問い合わせが多いことから、必要としている方へ届いていると実感する。引き続き、継続的に情報を届けられるよう活動していく。</p>
<p>【当初設定】 リーフレットの設置 ■アウトプット：80 か所</p>	<p>【実績】 引き続き、リーフレット・リーフレット立てを、グリーフを抱えた方が手に取れると想定される各事業所へ配布。今年度の活動に合わせて、前橋方面での事業所と積極的に連携をし、配布を行った。 リーフレットへは予定表を挟み込み、HP・Facebook を更新し、必要な方へ届けられるよう整備。 ■アウトプット：リーフレット設置箇所 約 85 箇所</p>
	<p>設置希望の各事業所へ持参・送付。</p> <p>○リーフレット 2 種類 当事者用・サポーター用 当事者用：印刷済 9,003 部、うち配布済み 3,716 部 サポーター用：印刷済 8,668 部、うち配布済 4,188 部</p> <p>○リーフレット立て 2 種類 当事者用：印刷済 245 個、うち配布済 66 個 (残 179 個) サポーター用：印刷済 255 個、うち配布済 77 個 (残 178 個)</p> <p>○予定表作成 (上半期・下半期) 印刷 ○ホームページ URL <a href="https://cotonoha.info/">https://cotonoha.info/</a> ○Facebook URL <a href="https://www.facebook.com/cotonoha.info">https://www.facebook.com/cotonoha.info</a></p>

## アウトカムに対する評価

参加者の中で、「『ことのは』を知人から紹介された」「リーフレットを保健師さんからいただいた」とお話し下さる方がいたことから、実際にリーフレットを手に取れる状況、グリーンケアが必要な方へ少しづつ情報が届いていると感じた。引き続き、情報を届けられるよう活動していく。

## 【ケアの場】

### アウトカム（当初設定）

・大切な人を亡くした悲しい経験を話すことができ、安心して涙の流すことのできる場が地域にあることが浸透してくる。

<p><b>【当初設定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大切な人を亡くされた方座談会 2回（桐生みどり）、3回（太田、前橋）</li><li>・お子さんを亡くされた親座談会 2回（桐生みどり）、1回（前橋）</li><li>・ワークショップ 1回（桐生みどり）、1回（前橋）</li><li>・子どものためのグリーンケア 1回</li><li>・手作りサロン 隔月（桐生みどり）</li></ul> <p>■アウトプット</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・グリーンケア座談会&amp;ワークショップ参加者 120名</li></ul>	<p><b>【実績】</b></p> <p>時期と開催場所を見直し実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大切な人を亡くされた方 ことのはカフェ 6回（2021年7月@前橋/2021年10月@前橋/2021年12月@桐生/2022年2月@桐生、2022年3月@前橋）15名</li><li>・お子さんを亡くした親 ことのはカフェ 3回（2021年4月@桐生/2021年6月@太田/2021年9月@太田）6名</li><li>・ワークショップ 2回（2021年7月14日@桐生/2022年1月16日@前橋）4名 ※途中1人お帰りになられたため、参加費は3名分</li><li>・子どものためのグリーンケア 1回（2021年12月11日@桐生）大人7名/子ども11名 合計18名</li><li>・ことのはオープンデイ（手作りサロン）@桐生みどり 9名（2021年5月26日/2021年9月22日/2021年10月19日/2021年11月24日/2022年1月26日/2022年3月23日）</li><li>・個別相談 @桐生/コトモ（2021年7月14日/2021年10月21日/2022年2月11日）3名</li></ul> <p>■アウトプット 参加者 55名 （大切な人を亡くされた方：15名、お子さんを亡くされた方：6名、ワークショップ：4名、子どものためのグリーンケア：18名、オープンデイ：9名、個別相談：3名）</p>
 	<p>○昨年に引き続き、感染症対策をしっかりとしながら開催。声が小さくなりがちなことのはカフェでは、少人数での開催とし参加者の声が他の方にもしっかりと聞き取れ、気持ちを共有できる場となるように工夫した。</p> <p>○緊急事態宣言もあり、「行きたい、でも今は参加を控えようか」と、参加を迷われる方が多い印象だった。そういった方には、mail や電話にて気持ちをお伺いしたり、また個別相談としてお話を伺う場を提供した。</p> <p>○4月開催の対象者は、「大切な人を亡くされた方」として計画していた。申込の時点で「お子さんを亡くされた方」が多かったため、以前にお問い合わせを頂いていた「お子さんを亡くされた方」へお声がけをし、「お子さんを亡くされた方の座談会」として開催した。ファシリテーターもお子さんを亡くされた方が担当をすることで、涙を流し気持ちの共感を多く持てる場となったと感じた。話の中で「お花」をキーワードに、みなさんの気持ちが一つになっていった様子がうかがえたことから、オープンデイでは、今までご参加して下さった「お子さんを亡くされた方」へお声がけをし、「フラワーアレンジメント」を開催した。「うちの子は青色が好きだから」「うちの子のイメージは・・・」など、お子さんのことを思い話しながら作れたことが、とてもよかったと感想をいただいた。</p> <p>○こどものグリーンケアにおいては、今までご参加いただいた親、兄弟を亡くされたお子さんへお声がけをし、「親子での交流」を自然とできるように、親子で触れ合いながらの運動を中心に開催した。参加者7組、お子さん人数11名。参加したお子さんの年齢は5歳から10歳。景色や空気の良い自然の中で、お子さんたちの輝くような笑顔が印象的だった。外でのワークの後は、大人はグリーン「悲嘆」についてのお話・お子さんには「いのちのふね」「かなしくなったらやってみて」の、えほんを読み聞かせをした。</p>
<p><b>アウトカムに対する評価</b></p> <p>参加者の多くは、「今のつらい状況はいつまで続くのか」「同じ経験をされた方とお話したい」と参加される。ファシリテーターやスタッフも当事者ということもあり、同じ境遇の方とお話できる場として、安心して涙を流しご参加いただけていると評価できる。</p>	



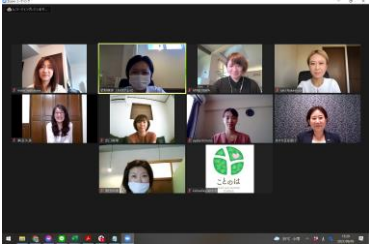
こどものグリーフケアで  
読み聞かせをした「絵本」



2021年10月  
オープンデイでは、お子さんを  
亡くされた方への開催として  
「フラワーアレンジメント」を  
実施。花かごはお子さんを亡  
くされた参加者の一人より  
「何かに使ってください」とご寄  
付を頂いたものを利用した。  
想いのつまった場となった。

### 【人材育成】

・県内各地でグリーフケアに携わりたい支援者が手を挙げられるようになる。

<p><b>【当初設定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターの養成</li> </ul> <p>■アウトプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーター 15名</li> <li>・ボランティア 20名</li> <li>・支援者のためのハンドブック作成</li> <li>・グリーフケアサポーター入門講座 &amp; 説明会 2回</li> <li>・グリーフケア支援者のための講座実施 2回</li> </ul>	<p><b>【実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○サポーターとして活動を希望の方へ、基礎講座・養成講座を受講していただく。</li> </ul> <p>■アウトプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ファシリテーター：3名、ファシリテーター候補：4名（計7名）</li> <li>○ボランティア：8名</li> <li>○支援者のためのハンドブック 作成途中</li> <li>○グリーフケアサポーター入門講座 &amp; 説明会（2022年1月）</li> </ul>
	<p><b>受講</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーフ専門士協会 オンラインによる受講 →2022年3月受講</li> <li>・グリーフケア協会 オンラインによる受講→2021年7月（2名受講済）</li> <li>・上智大学グリーフケア公開講座「悲嘆について学ぶ」 オンラインによる受講</li> <li>・勉強会「ご葬儀におけるグリーフサポート」 オンラインによる受講 2021年8月5日開催（10名受講）講師：あすかセレクト株式会社 正田様</li> <li>・勉強会「みかたになりきるコミュニケーション講座」 オンラインによる受講 2021年11月9日開催（11名受講） 講師：NPO 法人日本ゲートキーパー協会 大小原利信様</li> <li>・勉強会「周産期グリーフケア勉強会」 2022年3月25日開催（9名受講） 講師：周産期はちどりプロジェクト 大竹様・遠藤様</li> </ul>
<p>リーフレットや SNS を見てお声がけいただいたり、グリーフを抱えた当事者からも「サポートしたい」と、お問い合わせをいただくことが多い。ファシリテーター候補については、勉強会の実施や月に1回「サポーター交流会」を開き、座談会などの参加者の状況や、今後の改善点について話し合う場を設けた。ファシリテーターになるまでのマニュアルの作成や、支援者のハンドブックについて今後作成予定。ファシリテーターやサポーターのセルフケアにも注意していきたい。</p>	

Q1. 印象深かった内容をお知らせください。

ご遺族の方々のグリーフサポートのための葬儀という姿勢には感激しました。だからこそアスカさんの葬儀は温かいのだな...と感じました。

あすかさんで行われている葬儀のサプライズのお話がとても印象深かったです。

コロナ禍での葬儀の在り方

葬儀開催への思い

正田さんのご遺族への心遣い、心配りに感銘を受けました。※葬儀でのサプライズなど


Q2. 気づきや学んだことをお聞かせください。

お別れは選べること、悪いこと、と言イメージがとても強かったのですが、あすかさんでの葬儀で住まれるサプライズの話を知った時に、自分の母の葬儀を思い出して、最後叶えられなかった旅行のためにあすかさんが海の写真をご用意して下さった時に、自分のであげられなかったこと、母が叶えられなかったことを箱に入れることで浄化されるような気持ちを感じました。

正田さんのようにグリーフケアについて熟知している方でも、「ご遺族への対応は難しい」「細心の注意を払う」との言葉を聞き、私たちが受けるご遺族の心に寄り添うような方法を探さなければならぬと思いました。その事を踏まえ、今後の活動に取り組みなくてはならないと再認識させられました。

できなかったことを後悔することが多い死別ですが、大切なひととお別れした後でも叶えられなかったことを叶えることは難しくても浄化させることはできるのだと言うことに改めて気付かされました。

【基盤形成】

<p>【当初設定】 協力団体を募る ■アウトプット ・協力団体7社</p>	<p>【実績】 ■アウトプット ○協力団体（賛助会員） 3社 ○個人（賛助会員）3名</p> <p>○引き続き、桐生、みどり地区を中心にリーフレット・グリーンケア講演会への声かけをきっかけとし、協力団体を募った。 ○積極的に、連携できるような他団体へ声かけを行った。</p>
	<p>○他団体へ向けて「グリーン・グリーンケアとは」について、説明会を実施。 3社にて実施（桐生信用金庫様/コープぐんま様/群馬中央医療生協様）</p> <p>○協力団体にて、リーフレットを設置いただき、グリーンを抱えた方へお渡し頂くことができた。</p>
<p>コロナ禍において、対面での説明が難しい状況が続いたため、オンラインでの説明や声かけとなった。 引き続き、『このは』へご協力いただける協力団体を、募っていく。</p>	

メディア等 掲載



「HOME BANK」2021AUTUMN号



「ココロ日和」(有限会社 COCO-LO 発行)



受配表示（事務局 コトモ受付）